

練馬区立光が丘四季の香小学校

学校だより



< 10月号 >

令和2年10月1日

TEL 03-3977-2711

校長 高野博文

第116号

教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子

HP <http://www.shikinokaori-e.nerima-ky.ed.jp/>

環境問題を考える

校長 高野博文

今、世界中が新型コロナウイルスへの対応・対策に躍起になっている中、私はそれ以上に恐れていることがあります。それは、地球全体を取り巻く環境です。プラスチックごみの問題や気温・水温の上昇地球温暖化の問題です。今更そのメカニズムには触れませんが、地球誕生以来、現在起こっている急激な変化は初めてのことであると言われていています。当然、地球上の全生物に多大な影響を及ぼしています。その全責任は人間にあります。

今年はないかもしれませんが、私は毎年日本全国を飛び回っています。そこで見聞きすること、体感することで恐ろしさを募らせています。例えば、東北地方等の山が抱える万年雪が年々大量に溶け出しほとんど消滅していることや、海と陸（川）をつなぐ生き物が各地で激減していることなどです。また、気象の異常さが度を越し続けています。そして、毎日のようにニュースでは、サンマや秋サケの不漁や各地の養殖魚介類の壊滅的な死が報じられています。これらは異常な海水温の上昇によるものです。黒潮の蛇行も加わり今年には特にひどかったようですが、周りを海で囲まれている日本では、特に深刻な状況を生み出しています。海水温の上昇で北極、南極の氷がものすごいスピードで溶け出しています。海水面は上昇し続け地球上の多くの陸地を失います。人間が作り出したプラスチック片は海を汚し続け、人間を含めた多くの生き物の命が奪われ、種の絶滅も進むでしょう。レジ袋の有料化も解決の一つかもしれませんが、根本は解決されないと思います。核燃料の後始末や少子化の問題を含めて、私は今、暗い未来凶しか思い浮かべることが出ません。

しかし、一筋の光を見出すならば、それは教育の中にあると考えます。教育の場は学校にとどまらず、家庭・地域すべてを含みます。目の前の子供たち（未来人）と共に学び考え、解決の糸口を発見し託していく。地球がギリギリのところで悲鳴を上げている今、もはや一刻の猶予もありません。

子どもたちだけでなく大人も交通安全に注意しましょう。

今年の東京都における交通人身事故の発生件数は8月までで16006件でした。昨年と比べると減少していますが、コロナ禍による外出自粛を考えると決して低い数字ではありません。登下校に関しては通学路が決められており、子どもたちが安全に通学できるよう学童誘導員も配備されています。安全な歩き方等についてご家庭においても話題にいただき、子どもたちの意識を向上させられるようお願いいたします。そして、まずは大人が範を示したいものです。

